



鮎釣りの解禁が待ち遠しい

神野瀬川漁協が鮎の稚魚を放流・6/5

No.6

高野町を流れる神野瀬川で、7月1日の鮎釣り解禁を前に鮎の稚魚が放流されました。

この事業は毎年神野瀬川漁業協同組合が行う恒例事業で、今年は琵琶湖産の鮎400kgを放流。地元の保育園児や小学生約20人が放流を手伝いました。

子どもたちは「大きくなってね」「いってらっしゃい」と声をかけながら稚鮎を放し、元気よく泳ぐ鮎を目で追っていました。同漁協の上田慎二さんは「尾道松江線が全線開通し、市外から庄原市に気軽に来てもらえるようになったので、たくさんの釣りファンに神野瀬川の鮎釣りを楽しんでもらいたい」と話していました。



▲鮎を放流する子ども

移住への一歩！

農業体験で地域交流・5/23

No.8

総領自治振興区が主催する農業体験イベントが開催され、親子連れなど15人が参加しました。

このイベントは田舎への移住や農業に興味がある方を対象に行われ、田植えや野菜の収穫体験を行いました。

初めて田植えを体験する参加者もいましたが、地域の方々の指導を受けながら、1時間かけて2.5aの水田に苗を植えました。サヤエンドウや玉ねぎの収穫体験では、収穫したばかりの野菜を生のまま食べて、新鮮な野菜本来の甘味を実体験しました。

参加者は「参加者同士や地域の人たちと交流ができて楽しかった」と喜んでいました。



▲玉ねぎを収穫する参加者

地域ぐるみで移住者カップルを祝う

口和町湯木で有志手作りの結婚式・6/7

No.5

口和町湯木へ1ターンした上田英馬さん（石川県出身）と五嶋千絵さん（山口県出身）の結婚を祝う会が、地元有志でつくる実行委員会主催で行われ、地域住民約300人が出迎え祝福しました。

2人は湯木八幡神社で式を挙げ、実行委員が引く人力車に乗って披露宴会場まで移動する間も、多くの人から祝福を受けました。結婚式を終えた上田夫妻は「口和地域をもっと知り、口和のために働きたい。明るく楽しい生活を送っていききたい」と話し、実行委員長の清水孝清さんは「地域にとって2人の移住は大きな喜び。未永く幸せに暮らしてほしい」とエールを送っていました。



▲みんなに祝福を受け笑顔で応える2人

待望の夏山シーズン到来

比婆山・吾妻山・道後山で山開き

No.7

夏山シーズンの幕開けを告げる山開きが5月31日に比婆山、6月7日に吾妻山、6月21日に道後山で開催され、神事式や神楽など、さまざまなイベントが行われました。

比和の吾妻山池ノ原で行われた第45回吾妻山山開きでは、色鮮やかに咲き誇るタニウツギなどの花々に囲まれながら、多くの方が登山に臨んでいました。また、毎年恒例のバイ流し・比和音頭の踊りに飛び入りで参加する人もいて、地元の方と一緒に楽しんで踊っていました。

山頂まで登った登山客は「景色が最高で気持ちがいい。また来年も訪れたい」と新緑の吾妻山を満喫していました。



▲吾妻山山頂に憩う登山客

活動の輪を広げたい

ひだまりの会が小冊子を作成

No.2

庄原の小児医療を考えるひだまりの会が、同会の活動を紹介する小冊子を作成しました。

この冊子はB6版カラー8ページで、活動内容の紹介のほか、病院での上手な受診の仕方を紹介しています。500部作成し、市役所窓口や子育て支援センターなどで配布しています。5月29日には八谷るり子代表が市役所を訪れ、木山耕三市長に冊子を手渡し、完成を報告しました。

八谷さんは「小児医療を守るため、ぜひ私たちと一緒に活動しながら交流を深め、子育てに関する情報交換などをしていきましょう」と呼びかけています。



▲木山市長に冊子を手渡す八谷さん

◀完成した小冊子

40年間の集大成

太鼓ライブファイナルIN東城・6/6

No.4

太鼓ライブ実行委員会が主催する「太鼓ライブファイナルIN東城」が東城文化ホールで開催されました。

第10回目の今年で最後の開催となるこのライブで、鬼神太鼓、ひばん婆太鼓、神龍太鼓、口和備神太鼓の4団体が、魂のこもった演奏を披露しました。

鬼神太鼓代表の今岡誠一さんは「太鼓を始めて40年。中古の一寸太鼓ひとつから始まり、やる気と知恵と猛特訓でここまで来た。太鼓を通じてたくさんの出会いと別れがあった。今日出演した3団体もその中の仲間。これまで私たちを支えてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです」と万感の思いに浸っていました。



▲鬼神太鼓による迫力のパフォーマンス

カーブゆかりの3市町が合同PR

庄原市・日南市・由宇町が特産品販売・6/5

No.1

広島東洋カーブの応援を通じて交流を深めている3市町（庄原市・宮崎県日南市・山口県岩国市由宇町）が、マツダスタジアムで毎年恒例となっている合同特産品販売を行いました。また、来場者へ比婆牛の抽選プレゼントや、庄原市のキャラクター「ヒバゴン」と「キョロやまくん」の登場など、ご当地グルメ、マスコットを通じて、満員の観客に「庄原市」をPRしました。

庄原市カーブ応援隊の山根英徳さんは「出展者の皆さんのおかげでしっかり庄原市のPRができた。今後もカーブを通じて庄原市の認知度を上げ、地域振興につなげていきたい」と話していました。



▲大人気の「ヒバゴン」と「キョロやまくん」

西城産トマトで新メニュー開発を

広島経済大学の学生がトマトを定植・5/30

No.3

広島経済大学が行っている、人間力を高める「興動館教育プログラム」の一つ、カフェプロジェクト（学生だけで運営するカフェ）に取り組み学生22人が西城町三坂の栃木明美さんの畑で、トマトの定植作業を行いました。

学生たちは、大学内で運営するカフェで西城町産トマトのメニューを提供しようと、今年からトマト栽培に関わっています。この日はトマトの性質を学びながら苗を植え、その後、トマトを使ったピザ作りを体験しました。

男子学生は「トマトを使ったメニューをできるだけ早く開発し、庄原の皆さんはじめ、多くの方々に味わっていただきたい」と意気込みを語っていました。



▲トマトの苗を植える学生たち